



誰でも選挙は正しく明るく行わなければならぬものと一応は知っています。ところが、いざ選挙ともなれば公明選挙が叫ばれつゝ選挙違反者は相変わらず出てきます。

これでは百年河清を待つに等しく、いつまでたつても私達の生活は向上しないのではないのでしょうか。

選ぶということ

私達は、どうしてこのように悪循環を繰り返すのか、ほかにない方法がないのか、もっと真剣に考えてみる必要があるようです。

卒直にいつて、選挙といえは投票所に

行つて投票箱に一票投じさえすればそれでよいと考えている人が非常に多いのではないのでしょうか。問題は、一票投ずるまでの候補者を選ぶことについての考え方、あるいは選挙についての心構えが大切であり、そのためにはどうしても選挙というものの意義を正しく理解していなければならぬでしょう。

ただ漫然と投票したり、人に頼まれたから投票するというのでは正しい投票とはいえないのです。

みんなで考えよう

私達は選挙というものがどういう意味をもっているか、又、どんな風に私達の

生活と密接な関係をもっているかということについて、教えられるのではなく、私達自身の体験、研究によって知る必要があると思います。そのためにはどうすればよいかということですが、昔から「三人寄れば文珠の智恵」という諺があります。これは、物事を考えるときには、一人て考えるより考えた方が立派な智恵が出てくるということであつて、事実、たいていの場合一人て考えても同じところをグルグルまわっているのがオチのようです。

禅の高僧でさえも問答をとおして物事を考えていたことを思いますと、私達凡人が物事を考えるときはなおさら他人の智識を借りる必要が痛感されます。

社会的な考え方とは

このようなことから、社会的な考えに出されたのがいわゆる「話しあい」なのです。

この「話しあい」には、いろいろな方法がありますが、一口にいつて、大体十人から十五人程度の小人数の人が集つてお互の身近な問題、例えば税金の問題であるとか、生活改善の問題等を取り上げ

て、お互に意見を出しあつてその問題を理解していくことなのです。

生活と政治は

これは、あくまで「話しあい」であり討論ではないのですから相手を打ち負かすということではありません。つまり自分の意見を遠慮なく出しあつて、なごやかな雰囲気の中にお互が啓発されていくことなのです。

このようにして、私達の身のまわりの問題をとり上げていくうちに政治というものがいかに私達の生活と密接な関係にあるかということを理解することができるとです。そしてそのことによって選挙というものがいかに大切であるかということもわかってくるのです。これは県下各地での「話しあい」運動を通じてすでに明らかになっているところであつて、こうやつて各地で「話しあい」が盛んになれば、選挙の意義が選挙する人々に理解され、現在のような選挙違反もなくなり、一票の行使も責任をもつて行われることとなり、明るく、正しい、住みよい社会が生まれることも明らかです。

(地方課)

早崎海峡に面した五和町。名のおお、五つの町村が合併してできた新しい町である。

この町の婦人会の活動は、もともと婦人学級を中心に、婦人問題や生活改善活動が強くおしよゝめられている。各地で多く見られる婦人会の政治意識の低調さというものをこの町の婦人たちも、選挙の度毎に痛感させられていた。

母体となつた婦人学級

三十一年この町の婦人学級が文部省指定モデル学級として注目を浴びた。そして、翌三十二年に町の各地域の実績発表会が行われた。この間婦人学級の中にテーマとして公明選挙が取り上げられ盛ん



に討論も行われた。そのさきがけとなつたのは、婦人会幹部の公明選挙研究会であつた。町役場の高橋総務課長さんは早くから公明選挙話し合い運動を、婦人活動の一環として研究したらどうかとうと、熱意をこめて婦人学級の指導にあつてこられた。この研究会はいわば、公明選挙話し合いをどう婦人活動に組入れてゆくか、又、婦人と選挙の問題をどう考えるかという総合討論の場でもあつた。

明確にうかんだ焦点

そしてこの研究会で、つかんだ非常に貴重な結論が生まれた。つまり選挙にあつては……

- ★ 地域代表という狭い視野にとらわれてはいけない。
 - ★ 婦人だからといつて、必ずしも婦人の候補者を選ぶといつては、広い意味での真の代表者は選べない。
 - ★ 主人の票に従ふことなく、主婦と子供たちの利益をはかる票を選ぶこと
 - ★ 党か人物本位かという考え方は、やはり政党を選ぶべきである。
- このように、明確な、実状性に合った話し合いの基本線が打出されている。

納得することが大切

では次に、この婦人会の「話しあい」の活動の一端を紹介することにしよう。

婦人の政治意識を高めようと、婦人学級では、講師を招いて公明選挙講座が開かれた。これは各地区で開かれる研究会のために録音テープにおさめられ、さらに広く利用された。

選挙にあつて正しい投票をするためには、候補者についての認識がなくてはならない。そのためには、候補者の政見をきき、判断の基礎を養わねばならない。婦人たちは、いろいろな話し合いの機会に、候補者を招待して、話を聞くようにした。

それから、婦人会で町議会を見学したり、町会議員さんと呼んで町政の話や、議会の話などをきき、又、質問も活発に行われた。婦人たちの町議会に望むものは、いわゆるガラス張りの運営であつたが、そういう機会を多くもつことによつて町政の実態に少しもふれようという狙いであつた。

この町の城河原地区の婦人会では、選挙そのものに対する認識をもつために、モデル選挙を行った。これでは、すべてやり方を本格的な規模で計画され、告示から投票まで一切婦人たちが自らその役を受持つて、身をもつて研究することができた。

コーラスの歌声たかく

婦人学級はいつも楽しく開かれていく。小学校の先生に指導して貰っているコーラスもずいぶん上手くなった。この頃では公明選挙の歌もうたわれる。この町

の婦人たちは、選挙に対して自負と誇りをきき、やかながらも持つようになった。いわゆる、この町の男たちがいう「だまされにくい主婦」になつた。昨年の総選挙では、五和町では一人の棄権もなかつた。いままでの選挙でよくあつた違反行為もなくなつた。これは、町の唯一の誇りであつたが、同じく七月には公明選挙優良町村の全国表彰として大臣賞をうけた。

八ミリ映画も作りた

ここで強く感じることには、この段階まで自ら高めてきた二、六〇〇名の婦人たちである。そしてその指導の中心になつてきた、五和町連絡婦人会長の村上信子さんと、鬼池地区婦人会長小林年子さんそれに婦人会幹部たちの地味な努力である。村上さんと小林さんは、目下の抱負について次のように語られる。つまり、町会議員さんを婦人会に積極的に招待し質問か研究をもつと活発にしたい。さらに、機会を通じて、町の共同洗濯場や季節託児所の設置についてみんなで話し合いたい。現在の段階では婦人の自主性が一応保たれたようなものだが、今後いかに組織的に伸ばしていくかは、やはり、研究の形で徐々に進めて行きたいということ。いま、スライドを利用して、啓蒙の高度化を図っているが、将来は八、映画の製作も計画しているそうである。

(広報課)